

## 蒼竜峡

桂川流域にあるこの渓谷は、深い溝の間を曲がりくねって通っています。数万年前、富士山から噴出した古い溶岩流の残りが浸食されてできました。影響力のあった、20世紀初頭のジャーナリスト徳富蘇峰(1863-1957)は、都留を訪れた際、その美しさに魅せられました。曲がりくねった、蛇のような形状、鱗のような形に浸食した両岸の岩、水の印象深い青色に注目し、「青い竜」を意味する蒼竜と名付けました。この渓谷は、長さ約 1.25 キロです。

この渓谷を形成する岩石層は、富士山が最初に形成された頃の、数百万年前にさかのぼります。大噴火で溶岩が流れ出て、古い地層を覆い、現在の地形を作りました。その結果できた岩の硬さを考えると、桂川が非常に深い溝を刻むことができたという事実は、この川が極めて長い間、岩の上を流れてきたことを証明しています。こういった理由で、この場所は浸食の影響を観察する上で重要な場所とみなされています。